

次亜塩素酸水 コロナに効果

経産省など 空間噴霧は推奨せず

消毒液として使われている次亜塩素酸水の新型コロナウイルスへの効果について、経産省などは26日、拭き掃除やかけ流しによる物品消毒で効果が認められたと発表した。一方で空間への噴霧は有効性や安全性が確認できず、推奨しないとしている。

独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE)の実験結果によると、効果的な消毒方法は、油など目に見える汚れを事前に落とし、消毒したい物品を次亜塩素酸水で十分にぬらして20秒以上放置してから拭き取るか、20秒以上かけ流してから拭く。

拭き掃除の場合は有効塩素濃度80ppm以上、かけ流しは同35ppm以上のもので効果が確かめられたという。次亜塩素酸水は紫外線などで分解するため、経産省などは販売側に対し、有効塩素濃度や、使用や保管の方法を適切に表示するよう求めていくという。空間への噴霧で空気中に漂うウイルスを除去できるかにについては、国際的な評価方法が確立されておらず、安全性も確認できないとした。

次亜塩素酸水 「一定濃度なら効果」

経産省などは26日、新型コロナウイルスの影響で消毒用アルコールが不足する中、代替品として使われる例があった「次亜塩素酸水」について、一定の濃度や条件下であれば、消毒に有効とする検証結果を公表した。

条件も時間も量

経産省検証

検証は、国立感染症研究所などが行った。有効塩素濃度が0・0035%以上の場合、新型コロナウイルスの感染力が弱まることわかった。実生活で効果があるのは、テーブルの表面などを濃度0・008%以上のものを使っ

て十分にぬらし、20秒以上おいてから、きれいな布で拭き取るような場合だという。

手指や空気中のウイルスの消毒目的の使用について、同省は効果や安全性は検証しておらず、推奨しないとされている。また、濃度の記載がなく販売されているケースがあるため、事業者に適切な表示を求めた。